

ままカフェ☺通信

2018年 1月

平成24年4月から始まった『米沢ままカフェサロン』

3月をもってひとまずクローズすることとなりました。

これまで足を運んでくださったたくさんの方々に感謝を込めて・・・新たなステージへと・・・



絵：佐藤美保



震災から福島の家場所を置いて、米沢に無我夢中で来た私。あの時はもう力が出なくて、先が見えず不安だった。思い出すだけでも涙が出てくる。

そんな私はままカフェに行き、ホッとして、話して、笑って帰ってきた。そこには居場所があった。つながりが生まれた。きっと、わたしたち家族が今笑って米沢で生きていられるのは、ままカフェが見つめてくれた居場所と人に支えられ、守られ、助けられ、力をもらっているからだ。時間とともに帰福する人がいたり、周りはどんどん変化している。そんな中でもままカフェは変わらずあって、ままカフェがどうなっても土屋さんは山形にいる。先がまだ見えない私にとっては、これからを生きるお守りだ。感謝、感謝、感謝、本当にありがとう。

私にとって『ままカフェ』とは、避難してきてからの心のよりどころの一つであり、そこに行けば自然と笑顔になれました。時には泣きながら話したりもしました。私だけでなく、うちの子も、スイーツデコを作ったり、プレスレットを作ったり絵本の読み聞かせをしてもらったりとたくさんたくさん楽しませていただきました。それもこれもままカフェを支えてくださったたくさんの方々のおかげです。感謝しきれないほどの気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

知り合いのいない米沢に引っ越してきたとき、初めての子どもが生まれたばかりで、不安でいっぱいでした。そんな時、ままカフェを紹介してもらいました。そこに行くといつでも笑顔で温かく迎えてくれて、私は一人じゃないんだと頑張る力になっていました。子どもたちも「ままカフェ行きたい！」と言うようになり、楽しそうに遊ぶ姿を見るのがとても嬉しかったです。スタッフの皆さんやそこで出会った方々に子どもの成長と一緒に見守ってもらい、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。共有した時間は、全て私の宝物です。

避難してきて、母親で。同じ境遇の者同士が思いを共有できる貴重な場所でした。ちょっと嫌なことがあっても、ままカフェに来ればたくさん笑って忘れてしまう、楽しい時間でした。

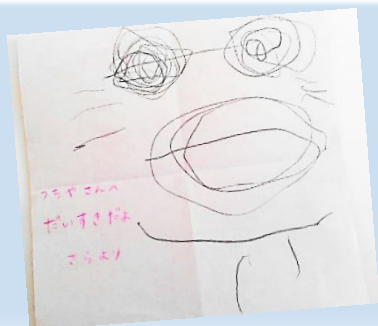
ありがとう。いつも笑顔で元気いっぱい迎えてくれて。「なんか楽しいことしよう!!」ままカフェでよく言っていた言葉。そして、たくさん楽しい経験をさせてもらいました。5、6年前には忘れかけていた言葉。座右の銘です。もう忘れない。ままカフェありがとう。スタッフの皆さんありがとう。「なんか楽しいことしよう!!」を合図にまた集まる日を楽しみに・・・。

突然始まった見知らぬ土地での子育てに、戸惑いや不安ばかりで、孤独だった私を救ってくれたのは『ままカフェ』でした。

襖を開けるといつもそこには優しい笑顔が迎えてくれる。真剣に悩みを相談したり、時にはくだらない話に笑い、時にはみんなで時間を忘れて作業してみたりと、日々の生活に潤いを与えてくれる大切なひととき。

そして、子どもたちのために頑張っているたくさん仲間に出会うことができたのも、ままカフェがあったから・・・。「ありがとう!」本当に感謝の一言です! あの日がなければ出会わなかった、あの日があったから出会うことができた。みんなとの大切な時間をくれた大切な居場所でした。

ままカフェがあったから、私たちはここまで頑張ってきたよ。知り合いのいないこの米沢で子育てするのって、みんな本当に心細かった。ままカフェは、いつも「わかる～」「そうだよねー!」「いいんだよ♡」「大丈夫。」ってどんな事も優しく包み込んでくれました。本当にありがとう。みんな、この感謝の気持ちをどうやったら伝えられるのか分からないよ。だから、大きな声で言うね!! 本当に、本当にありがとう—————。



4年前の山形新聞のコラム『家族通信』に掲載された私の書いたもの。

ギュッと抱きしめると。

長女は10歳。身長などは私の肩まで達し、抜かれるのも時間の問題。たまに、「抱っこさせて〜。」と言っても、なかなかさせてくれなくなりました。6歳の次女は、まだまだ抱っこ大好き！でも、これもまた時間の問題かな？などと思うと、淋しいです。

3年前に起こった東日本大震災。大きな地震に脅え泣いていた娘達。1年生だった長女は、しばらく経ってから「学校に行きたくない。」と言いはじめました。そして、ある朝、「また地震がきたら、もうママに会えないかもしれない。」と泣いたのでした。不安で怖かったのは、私も同じ。娘をギュッと抱きしめると、心がじんわり温かくなってきて、私の不安は吹き飛び、「大丈夫、頑張ろう！」と強く思えたのでした。抱きしめているつもりが、抱きしめられているのだと知り、子どもを守りたいと思っていたけれど、子どもに守られているのかもしれないと気づいた時でした。それまでも、いくらでも抱っこしていたはずなのに、気づけなかったなんて。

現在でも、被災地では復興が進まず、不自由な暮らしを強いら

ママカフェサロン

からの

メッセージ



れているご家庭があると聞きます。

原発事故が原因で避難されている家庭も多いようです。心が折れそうになりながらも、子どもを守りたいと願うお母さん達。子どもたちをギュッと抱きしめながら頑張っているのだらうと思いを馳せたりするのです。

母は強し！と言われるけれど、きっと子ども達に守られているから強くいられるのかな？と最近思っています。疲れて、イライラして、言いたくないことまで言ってしまったり、全てがうまくいかなくて落ち込んだり…。それでも、子どもたちは、いつもと同じく、私を「お母さん」と呼び、ギュッと抱きしめてくれます。お母さんって幸せだな〜とつくづく感じるのです。

さて、いつまで、ギュッとさせてくれるのでしょうか？タイムリミットは近いかな？

この頃と比べ、変わったこともあれば、変わらないこともある。変わったことといえば子どもたちが大きくなり、私が年をとったこと。変わらないことは、復興も原発事故もまだまだ終わらないことと、下の娘がまだ抱っこさせてくれること。

ママカフェサロンで出会ったお母さん達はいつも一生懸命で、強く優しい。迷っていながらも前向きで、他の人の悩みも自分のことのように真剣に考えてくれる。お母さんってすごいな…といつも憧れていました。みんなと出会って私はやっと『母』を知ったのだと思います。ママカフェサロンは皆さんが作ってくれた場所です。こんなに素敵な場所を作ってくれてありがとう♪定期的なサロンという形のままカフェはクローズしますが、夏休みや冬休みに「楽しいことをしよう！」とまた声かけますね。それを楽しみに…。最後に、ここで出会えた全ての方々に感謝を込めて…ありがとう♪これからもよろしくね。

つっちー(やまがた育児サークルランド土屋清美)

お知らせ

「ママカフェサロン& はーとタイム」

はーとタイムは、臨床心理士の

寒河江先生とお話できます。個別相談は

予約が必要です！定員がありますのでお早めに！

通常のままカフェサロンも同時開催！

日時：3/1(木) サロン 10:00~14:00

はーとタイム 10:00~12:00

10:00~個別相談(30分程度 定員3名)

※個別相談は事前に申込みが必要です。

2/23(金)まで。

場所：置賜総合文化センター3F和室

「ママカフェサロンファイナル~平日の部~」

お弁当を注文します！ワイワイ思い出ばなししながら食べましょう~！

日時：3/9(金) 10:30~14:00

場所：置賜総合文化センター3F和室

無料・要予約(3/2締め切り)

福島に戻ったお友達もぜひ誘ってね♪

「ママカフェサロンファイナル

~休日の部~

おにぎりとお汁を作ってお楽しみましょう！

子どもたちのお手伝い待っています！

日時：3/21(祝) 10:30~15:00

場所：すこやかセンター調理実習室

無料・要予約(3/12締め切り)

2013年から発行している『ママカフェ通信』は、2017年より、避難しているお母さん達と一緒に作成・発行しています♪お問い合わせは、

特定非営利活動法人やまがた育児サークルランド置賜事務所 (土屋)

〒993-0086 長井市十日町1-6-49-2 TEL/FAX 0238-87-0814